

はじめに	公文俊平	i
苦惱する米国の情報通信政策	土屋大洋	001

第1章	なぜ通信産業はメルトダウンしたのか?		
01	テレコム・メルトダウン	エリ・ノーム	010
02	規制撤廃のための規制	エリ・ノーム	013
03	新制度への移行に伴う危険	リチャード・A・エプスタイン	018
04	インターネット・サービスの定義と 規制をめぐる混乱	リチャード・A・エプスタイン	022
05	新規参入事業者を殺してしまう「良い政治」	トーマス・W・ヘイズレット	027

第2章	独占は本当に悪なのか?		
06	通信産業を崩壊させる規制撤廃バブル	エリ・ノーム	032
07	消費者を置き去りにした メディア所有規制論議	トーマス・W・ヘイズレット	036
08	データで見るメディア集中論議	エリ・ノーム	042
09	ドットコム企業が作り出す独占と 反トラスト政策の迷走	トーマス・W・ヘイズレット	048
10	反トラスト法違反を盾にした マイクロソフト社叩きは間違いだ	トーマス・W・ヘイズレット	053
11	通信産業を疲弊させる 反トラスト訴訟の猛攻撃	リチャード・A・エプスタイン	058

第3章	電波は誰のものか?		
12	電波開放への第3の道	エリ・ノーム	066
13	電波開放への第4の道	エリ・ノーム	071
14	FCCの政策ミスで 通信コモন্ズの悲劇が起きている	トーマス・W・ヘイズレット	076
15	携帯電話に共通標準は必要か	トーマス・W・ヘイズレット	081
16	無線市場から利益を抽出する痛み	トーマス・W・ヘイズレット	086
17	自ら可能性をつぶした低出力ラジオ	トーマス・W・ヘイズレット	090
18	テレビ電波を 新通信サービスに開放せよ	トーマス・W・ヘイズレット	093
19	起業家は新しいアイデアを 申請してはならない	トーマス・W・ヘイズレット	099

第4章	情報を支配するのは誰か?		
20	ファイル共有をめぐる戦争は終わらせるべきだ	ローレンス・レッシング	104
21	グロックスター社の勝利はイノベーションにとって不可欠だ	ローレンス・レッシング	109
22	創造的活動の妨げとなる著作権保護期間延長法	リチャード・A・エプスタイン	113
23	著作権延長競争をやめるときが来た	ローレンス・レッシング	118
24	米国にとってのBBCの教訓	ローレンス・レッシング	121
25	次の文化戦争	エリ・ノーム	125
26	知的財産権の法律家が期待する強制許諾の落とし穴	リチャード・A・エプスタイン	129
27	ソフトウェア特許の排他的権利がもたらす停滞	ローレンス・レッシング	134
28	電子情報取引法を弁護する	リチャード・A・エプスタイン	139
29	製薬会社が直面するメディケイドと特許のあいだの矛盾	リチャード・A・エプスタイン	145
30	特許申請の増加に対応したインフラ整備を	リチャード・A・エプスタイン	151
第5章	インターネットは社会のルールを変えるのか?		
31	インターネットのイノベーションはオープンで自由な環境から生まれる	ローレンス・レッシング	156
32	サイバースペースでの不法侵害にも従来の規則を適用せよ	リチャード・A・エプスタイン	160
33	サイバー侵害に苦しむ敗者	リチャード・A・エプスタイン	165
34	3つのデジタル・デバイドを区別する必要がある	エリ・ノーム	170
35	途上国ではブロードバンドよりも電話を優先させろ	エリ・ノーム	175
36	インターネットで本当に民主主義が実現するか	エリ・ノーム	178
	あとがき	砂田薫	184